



天才、現る。



O K A M U R A M I T S U N O R I

岡村光矩



2009年、九州レースの界に彗星のごとく天才が現れた。RSG(Riding Sports Garage)所属の岡村光矩選手だ。キャリア2年足らずの岡村選手は、走る度にHSRのコースレコードを更新。2009年のレース結果を見も分かるとおり、まさに飛ぶ鳥を落とす勢いである。

「天才」というと何処か浮世離れた人を連想するのだが、何もそんなことは無い。確かに、人並み以上の素質を秘めてはいるのだろう。しかし、それ以上に感動したのは「バイクに乗ることが好きだ」ということ。これは並みのレベルではなく、バイクに対する想いは一般人を遥かに超越していた。さらには、その自分が好きなことに全力で取り組むという姿勢。これには正直に頭が下がった。自分を信じ、自分が取り組むことに一切の迷いをもたず走る岡村選手と話すだけで、こちらも沢山の元気を頂いた。

そんな岡村選手は、今年も国際ライダーとして全日本選手権に挑戦するとのことだ。彼の「挑戦」はまだ始まったばかり。2010年も自分たちに驚きと喜びと感動を見せてくれるだろう。

そんな、岡村選手の手記をそのままに、岡村選手に会ったのは先月のことで、知り合いを通じて紹介された。岡村選手はバイクプロスライディングスクールの講師の一人であるので、取材時に何度か顔を見たことはあったのだが、ちゃんと話すのは始めてだった。「こんにちは！岡村光矩です!!今、RSGでレースをさせて頂いています!」

ハキハキとした元気な口調で自己紹介し、彼は深々と頭を下げた。30歳を越えて数年が経過した自分にとっては、彼が身にまとう「若さ」というオーラが心地良く、そしてキラ

〈2009年岡村選手手記より抜粋〉

何のためにレースをするのか？その先に何をしたいのか？
僕はレースが大好きだ。チームの仲間とレースに取り組み、結果を残す為に最大限の努力をする。それが一番大切だと思う。

おかっブレーキングを残しつつマシンと相談して進入していくあの感じ。あの時こそフロントタイヤが滑らせて、トラクションが最大限に発生している。そこで発生させたトラクションを、クリップ付近までブレーキを引きずりつつ、フ

